

平成 19 年度
鹿児島大学法科大学院

小 論 文 試 験 問 題

平成 18 年 12 月 16 日(土曜日)

答案作成上の注意

- 1.「解答はじめ」の合図があるまで、この 1 ページ目を表にして、この小論文問題冊子を開かないこと。
- 2.小論文問題冊子は、この表紙を含めて 6 ページある。
- 3.解答用紙は 5 枚配布する。解答用紙は 1 枚ごと(小問ごとに)すべてに、受験番号および設問・小問の番号を記入し（記入例：1－(1)、2－(2))、かならず 5 枚とも提出すること。
- 4.解答は、すべて解答用紙の指定された欄に、横書きで記入すること。
- 5.試験終了後、この小論文問題冊子は、持ちかえってよろしい。
- 6.設問の出典表示は、解答にあたり予断を与えないために、割愛してある。また、原文の字句・構成を適宜、一部省略・変更した部分がある。

設問 1

以下の文章はある書物の一部分を切り取り、各段落の冒頭に①から⑫までに便宜的な段落番号を付したものである。

(1) この文章を3つまたは4つの節に分けて、各段落をそのように分ける理由を簡潔に述べよ。なお各節の内容を的確に表現する節の題名も示すこと(250字程度)。

(2) この文章の趣旨を要約せよ(200字以内)。

(3) この文章に対して、批評を加えよ(400字以内)。

【出典】

来栖三郎「文学における虚構と真実」『法とフィクション』(東京大学出版会、1999年) 157頁 13行目 から 160頁 12行目 まで。

ただし、原文に、以下のとおり変更・省略を加えた。

※各段落の冒頭に、①から⑫までの番号を付した。

※原文に付されている節(二～四)の題名を削除した。

※原文にある節の区切りを削除した。

※原文の157頁13行目と58頁17行目の冒頭にある段落番号((一)、(二))を削除した。

※原文に付されている傍点はすべて削除した。

問題 2

万引きの絶えないスーパーの店主 A は、万引きを防止するために、店頭に以下の張り紙を出すことを思いついた。

「万引きを検挙頂いた方には、10,000 円の謝礼を差し上げます。」

- (1) 店主のこの計画について、あなたの考え方を述べなさい (400 字以内)。
- (2) (1) で述べたあなたの考え方について、想定される批判を述べなさい (400 字以内)。

以上